



①播種(種まき)風景 ②秋晴れの中の定植風景
③春キャベツを収穫する出口さん ④出荷を待つ春キャベツ
⑤春キャベツの断面

三浦半島からの季節の便り ふんわり甘い春キャベツ

種まきは秋、収穫は春

丁寧に育苗しています

春キャベツの栽培について

種まきは9月下旬から、定植は10月下旬から順次行います。収穫は早ければ3月上旬からスタートします。

春キャベツは、生育適期で栽培されるために病害虫の被害が少なく、三浦半島の産地では化学合成農薬の使用回数が減る傾向にあります。

春キャベツの特徴は、やや小さめで丸く、色鮮やかな黄緑色で、巻きが緩くふわっとして、水分が多く柔らかいことです。きれいな緑色を生かしたサラダ(生食)はもちろん、強火でさっと炒めれば、甘みがさらに楽しめます。みずみずしさを味わうなら、火を入れる場合も短時間にしましょう。葉と葉の間が詰まっていないもの、とにかく巻きが「ふわっ」としているものがおいしい春キャベツです。

色鮮やかな黄緑色も特徴の一つ

キャベツの場合、連作障害はあまり出ませんが、土壌を有用微生物が豊かでバランスの良い状態に整えていけば、病害の大きな問題は起きにくくなり、化学合成農薬や化学肥料に頼らない栽培ができるのです。

三浦半島EM研究会も化学合成農薬使用は育苗期に1、2回程度で、栽培期間中はほぼ使用せずに収穫を迎えます。東都生協には、3月4回の企画開始時から終了まで、安全安心な春キャベツが届けられます。ちなみに、収穫時に外したキャベツの外葉は、土づくりに生かしています。

育苗へのこだわり

農業も子育てと同じで、育苗がとても大切。キャベツになるまでの生育過程や味までが育苗時に決まるともいえるので、同研究会では手間暇をかけて丁寧に育苗を行っています。

三浦半島EM研究会 生産物カレンダー

1月	早春キャベツ	無無フロッコリー	短大根
2月	春キャベツ	大根	
3月			
4月			
5月			
6月	無無きゅうり	無無ピーマン	無無なす
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			



出口 大佑さん(左)と鈴木 孝さん

鈴木 誠さん

春キャベツを届けて4半世紀…三浦半島EM研究会

三浦半島EM研究会は、三浦半島の温暖な気候を生かし、露地野菜中心の農業を活発に行っています。三浦半島は大根やキャベツでは全国屈指の産地として知られ、国指定産地となっています。春キャベツの生産も盛んで、その柔らかさと甘さには根強い人気があります。

この春キャベツに着目し、1998年、東都生協はEM研究会との取引をスタートさせました。4半世紀のお付き合いを経て、現在は同会のキャベツ、大根類、きゅうりやなす、ピーマンなども取り扱っています。

EM栽培とは？

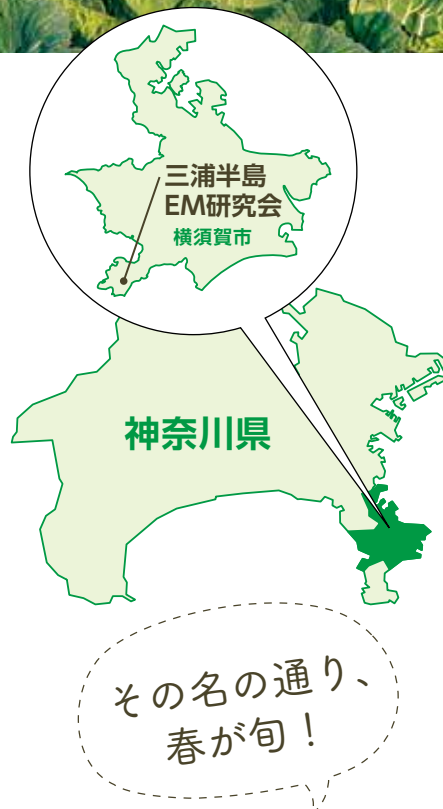
「EM」は「Effective (有用な) Microorganisms (微生物群)」の略語。開発者の比嘉照夫氏が、英文表記の頭文字を取って名付けました。

EM研究会では、EMと米ぬかなどの有機物を用い、化学合成農薬・化学肥料を減らした野菜作りを実践しています。「畑に微生物のエサや棲みかとなる有機物をしっかり投入することで、土壌中の有用な微生物が増え、病原菌にとって棲みにくい環境になるので、土壌消毒剤を使う必要がなくなる」というのが同研究会の基本的な考え方です。

生産者からのメッセージ

「よく『EM菌』と言われますが、EM菌というものが存在するわけではありません。『EM』は乳酸菌や酵母、光合成細菌などを組み合わせた、人にも自然環境にも優しい善玉菌の集合体です。このEMを土づくりにしっかりと使用し、土壌中の微生物の密度を上げることが、健康な作物を育てる鍵だと思っています。人間も健康のために腸内細菌を整えることが大切のように、野菜栽培においても、土壌中の微生物のバランスを整えることが、健康でおいしい作物を作るために大切だと考えています」

(三浦半島EM研究会 鈴木 誠さん)



春キャベツ1玉

参考価格：(特)238円(税込257円)
企画：3月4回